

令和5年度 府中市立府中第一中学校 学校経営方針

1 目指す学校像

「創る・伝える・結ぶ」の教育目標を実現する学校

(1) 生徒も教職員も生命の尊さを深く理解し、安全で安心して生活できる学校

- ・生命を尊重する視点、差異を認め合う視点、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めていく人権的な視点、を生徒も教師も共有する。また、あらためて災害や新型コロナウイルス等に対する危機管理体制を確立するとともに日常の安全指導の充実を図る。

(2) 学校生活において一人一人の生徒を大切にす理念が貫かれ、生徒中心・生徒第一の視点に立った教育活動が力強く実行されている学校

- ・一人の生徒を大切にすることのできる学習指導、生活指導、進路指導の推進を図る。
- ・生徒のために教師がいるとの自覚の下、教師中心ではなく生徒中心の教育活動を充実させていく。

(3) 生徒の主体性が発揮され、生徒の豊かな人間性や内発的な能力を開花させることができる学校

- ・学習指導では、授業において話し合い学習などの協働的な学習を取り入れる。
- ・生活指導では、各種の行事や委員会活動における生徒の主体的な活動を推進するとともに、自己決定の場の設定や共感的な信頼関係を通じた自己指導能力の育成を図る。

(4) 専門性の高い教員の指導による質の高い教育活動が提供され、生徒が学ぶ喜びを実感できる学校・高い専門性に基づく学習指導、質の高い教育相談や特別支援教育の推進、関係機関との効率的な連携による重層的な支援などを通して、授業や行事、係活動や委員会活動などで楽しく学ぶことのできる学校を目指す。

2 中期的目標と方策

将来の地域社会を担う人として役割を果たすことができるよう、生徒の主体的な学びを促進するとともに、取組等を振り返り、修正・改善する過程を経験できる教育活動を展開する。そのためには、教育活動を支える教師同士がねらいを達成するために集中して協議できる集団となることが大切である。

【方策】

- ①生徒会等の自治活動を活性化し、生徒が作り上げる過程を経験できる機会を、全教育活動を通して設定する。
- ②他教科の指導にも関心をもち、自らの教科指導にいかす教師を育成する。
- ③教師が相互に良い点を認め互いを尊重しながら課題を指摘しあえる教師集団となるよう機運を醸成する。

3 今年度の取組目標

- (1) 自他の生命を尊重し、いじめを許さない人権教育や道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図る。
 - ・「特別な教科 道徳」の充実を図るとともにいじめの解消率を100%にする。
- (2) 毎日の授業では、話し合いの学習などの対話型、問題解決型の学習活動を計画的に導入する。
 - ・話し合いの学習などの生徒の主体的な活動を、単元計画に基づきながら効果的に全教員が導入する。その際、効果的にタブレット等を活用する等、ICT機器の活用を推進する。
- (3) 全校の生徒を全校の教員が見守り育ていく生活指導を推進し、生徒の自己指導能力を育成する。
 - ・教育相談的な手法や生徒に寄り添う生活指導に徹する。また、生徒による自己決定の場を数多く設定するとともに共感的人間関係の構築、自己存在感の育成を通して生徒の自己指導能力を育む教育環境を構築する。
- (4) 生徒一人一人の個別のニーズに対応して効果的な支援を行うため、特別支援教育の充実を図る。
 - ・週1回の校内委員会を活性化させ、生徒一人一人のニーズを明らかにしたうえで効果的な支援の在り方を協議し実行していく。
 - ・校内の特別支援教育に関わる理解・啓発を推進し、生徒に対する支援の充実を図る。
 - ・通常の学級とK組との交流及び共同学習の推進を図り、生徒間での差異を認め合う教育環境を構築する。
- (5) 日々の授業など、あらゆる教育活動におけるユニバーサルデザイン化を積極的に推し進める。
 - ・授業や行事の取組の中で、時間の構造化や空間の構造化を図り、校内でのUD化を推進する。
- (6) タブレットや大型提示装置などのICT機器を活用した教育活動に積極的に取り組んでいく。
 - ・3年間の見通しをもって、校内におけるICT教育の推進を図る。今年度は、全教員による話し合い学習におけるタブレットの活用を目指して授業改善に取り組む。
- (7) 集団としての力を高めるため、運動会や合唱祭、校外学習などの行事を生徒主体で企画・運営する。
 - ・生徒による行事の企画立案や運営主体を生徒に置き、生徒中心で学校行事等が営まれるよう、校内体制を確立する。
- (8) 学校や学級に対して適応が難しい生徒のための教育相談機能を充実させ支援体制を整備する。
 - ・不登校生徒に対する効果的な支援を実行するために、アセスメントシートを作成し、個々の生徒の実態を明らかにしたうえで、複数の教員による組織的な対応による効果的な登

校支援を行っていく。

- ・不登校対策委員会を中心に、サポートルームの活用をはじめとして不登校傾向にある生徒へのアプローチを検討し校内体制の充実を図る。

(9) 学びと育ちの連続、接続を円滑にする小中連携、一貫教育の充実を図る。

- ・年間3回の小中連携の日を充実させるとともに、計画的に中学校の教員を派遣する。

(10) 地域・保護者との連携を図った府中版コミュニティスクールを推進する。

- ・地域や保護者の意見を反映した学校経営を実現する。